

造林事業における指差呼称

飯田・上村担当区事務所

山崎親之

要 旨

造林事業における指差呼称は、はっきり言って無縁のもの、ましてや区切のない作業に導入することはむずかしいと考えていた。しかしながら造林事業における指差呼称の導入は、全作業には不可欠であると痛感し、指差呼称を実践することにより、今までの安全活動に更に磨きをかけ、災害のない職場にするために、我が担当区職員が意見を出し合い地についた活動をするには、どうしたらよいか模索しながら考え実行した結果を報告する。

はじめに

当担当区は、職員14名、他に再雇用2名で2つの造林班からなっている。

・ 今までに実施してきた安全活動は

1. 午前、午後の2度体操
2. 班長を中心とした朝のミーティングの実施
3. 安全推進員を中心とした月間安全目標の設定及び掲示
4. 朝の体操終了時、安全当番による月間安全目標の声掛け及び全日による復唱
5. 作業着手前、班長が現地に合った注意事項の声掛け、更に全日による復唱
6. 作業中におけるお互いの声掛け、目くばり、気くばりの実施
7. 1日の反省と安全日誌の記載

以上のことを実施し仲間同志何んでも話せる職場で59年以降災害を起さないよう努力しているところである。

I 指差呼称導入の気運

私達が実施している指差呼称は、「砥石台よし」「鎌覆いよし」等で、この他には何にもしていなかった。

本格的に指差呼称の話が持ちあがったのは、署の安全点検が実施された時「指差呼称のパンフレット」が配布され、その説明の中で担当区なりきの指差呼称を作成し現場にとって最も身近なもの、ふれあいのあるものにしてはどうかと指導があった。

そのことから指差呼称を作ろうと気運が盛り上がった。

II 今までに指差呼称を実施できなかった理由

指差呼称をする場合、どういうことが障害となってできなかったか、全員の声をまとめたのが表-1である。

III 最も効果的な指差呼称

さて指差呼称の項目は造林作業基準及び、体験等から作業種ごとに概略的整理をしたのが表-2

表-1 指差呼称を実施できなかった理由

(1) どこでやるのが良いかわからない	(5) いまさらはずかしい
(2) 造林の場合指差呼称をしていたら仕事にならない	(6) 手を上げることは良いが声がない
(3) はずかしい	(7) 自分なりに声をかけているから
(4) てれる	(8) この歳になって

このことから

- (1) 指差呼称の理解 → 指差呼称の勉強
- (2) 指差呼称をしていたら仕事にならない } → 造林作業の節目、節目に行い
どこでやるのかかわからない } 回数を少なくやりやすくする
- (3) はずかしさをなくす → 指差呼称は全員が慣れるまで全員が一緒に実施する

表-2 指差呼称項目別、作業種、整理表

項目	作業種										
	共通	地指	新植	下刈	つる切	除伐	除伐Ⅱ	枝打	先通	カシノク	
準備よし	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	★ 落石注意
道具よし	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	★ 転落注意
核機(注意)よし	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	★ 足場よし
周囲よし	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	★ 顔色よし
砸石台よし		○		○	○	○		○			
上下作業よし	◎	○	○	○	○	○	○	○		○	
足元よし	◎	○	○	○	○	○	○	○		○	
突き目注意		○	○		○	○	○	○		○	
ハチに注意		○		○	○	○					
伐倒方向よし							○				
罫種よし		○		○	○	○					
作業終了よし	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

である。

この表から、造林事業の指差呼称は12項目の内7項目が全作業に共通していることであり、今まで耳なれてきたことばかりである。新しいことは、ハチに注意、の項目であり、近年ハチに刺される災害が多いことから設けたものである。以下12項目を指差呼称重要項目に決定した。

IV この過程で指差呼称をするか

造林事業は作業が連続しているので、その行動ごとに指差呼称をすることは作業を中断しなければならず容易なことではない。しかしながら指差呼称をするにはどうしたらよいか、話し合いまとめたのが表-3である。この表から指差呼称を実施する節目は作業着手前、又は連続作業が終了し

表-3 指差呼称実施時点別、項目別表

項目	時点別	始業時	休憩・休息の後	通行・始通行中	作業始め	異状を感じた時	伐倒木と	作業終了	研 磨
準備よし		○							
道具よし		○				○			
核機(注意)よし				○					
周囲よし			○		○		○		
上下作業よし			○		○		○		
砥石台よし									○
足元よし			○	○	○				
突き目よ意			○		○				
ハチに注意			○	○	○				
伐倒方向よし							○		
継履よし								○	
作業終了よし								○	

た時点で行なうのが、作業に影響が少ないと思われる。最小の指差呼称で最大の効果が期待できる節目が決定した。

V 指差呼称の項目ごとの内容

1. 準備よし……1日の作業を始める前にお互いに向い合い、「準備よし」と指差しよう。

内 容

- ① 作業の服装は身軽で整っているか。
- ② 衣服は袖じまり、裾じまりの良いものを着用しているか。
- ③ 履物は滑らない足に合った丈夫なものをはいているか。
- ④ すね当は良いか。
- ⑤ 保安帽のアゴヒモはしっかりしているか。
- ⑥ 顔色は良いか。
- ⑦ 救急薬品は良いか。
- ⑧ 緊急連絡体制は完全か。

今日も一日の安全のためお互いに気持ちを引締める。

2. 道具よし……道具の良しあしで1日の疲労の度合いが決定します。自分の道具に愛着をこめて「道具よし」と指差しよう。

内 容

- ① ガタツキはないか。
- ② 歯こぼれはないか。
- ③ 砥石は非常に小さい物、また薄くなった物を使用していないか。

自分の守り刃をしっかり点検しよう。

- ④ 滑り止めのゴムはしっかり付いているか。
- ⑤ 必要な予備の道具は確保してあるか。

3. 栈橋よし……作業の行き帰り落ちないために一時停止して、「栈橋よし」と指差しよう。

- ① 栈橋のグラツキはないか。
- ② 桁が腐っていないか。栈が腐っていないか。折れていないか。
- ③ 手すりがしっかりしているか。
- ④ 栈橋がすべり易くないか。

気楽に落ちてはいけません。
困るのは奥さんだけではありません。

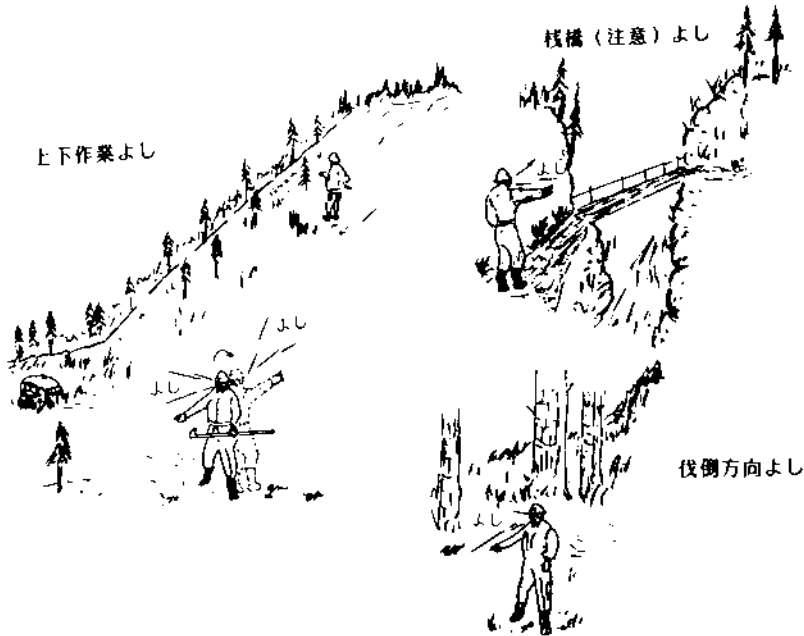


図 1 指差呼称実施図

4. 周囲よし……上下作業よし……上下作業は転石、木片等の落下物の災害、接近作業は同僚への災害の誘発となります。主作業を始める前に、「上よし」、「下よし」、「まわりよし」と確認して指差しよう。

内 容

- ① 上下作業又は、周囲作業になっていないか。
- ② 上下に、また周囲に同僚はいないか。
- ③ 落下する危険のある根株転石等はないか。
- ④ 同僚に危険を与えるような作業をしていないか。

安全は自分のものだけではない、仲間の安全も1人1人が心掛ける。

5. 足元よし……歩行中による災害はたたみの上でも起ります。まして急傾斜地の足場の悪い箇所、今日一日歩行中の災害は起させないという毅然とした態度で、足元確認を指差しよう。

6. 砥石台よし……刃物の研きは、一歩まちがえれば、まちがなくな手切削します。慎重に慎重に、「砥石台よし」と指差しよう。

内 容

- ① 砥石台は動かないか。
- ② 固定する場所の周りは良いか。
- ③ 無理な姿勢になっていないか。
- ④ 小さくなったり、薄くなったりした砥石は使用していないか。
- ⑤ 砥いでいるときは、よそ見をしたり、雑談したりしないか。

身体の切れ好調
刃物の切れも抜群、両方合致して切れ味最高

7. 突き目注意……突き目の災害は冬期に多く発生している。痛い目に合わないよう、「突き目注意」と指差しよう。

内 容

- ① 作業地には柴は多いか。
- ② 笹はあるか。
- ③ 枯枝は多いか。
- ④ 枝条は多いか。

目は安全作業をするためには最も重要です。目なくして安全の芽はありません。

8. ハチに注意……ハチ刺されによる災害が多く発生している。小さいハチ、大きいハチに関係なく刺されないように気をつけるために、「ハチに注意」と指差しよう。

内 容

- ① 自分はハチに刺された場合はどうなるか。
- ② ハチの多い作業地はどこか。
- ③ 救急薬品は持っているか。

一寸のハチにも人間を倒す毒、甘くみないこと。

9. 伐倒方向よし……小径木伐倒でも甘くみてはいけない。生産手に負けない声で、「伐倒方向よし」と指差しよう。

内 容

- ① 伐倒木のつるが隣接木に巻き付いていないか。
- ② 伐倒木は著しく不整形木になっていないか。
- ③ 伐倒木は枯れていないか。
- ④ 受口、追口は決められた通りやっているか。
- ⑤ 伐倒木の周囲はよいか。待避場所はよいか。
- ⑥ 伐倒方向は良いか、人はいないか。

決められたことを遵守して伐倒すること。

10. 鎌覆いよし……鎌を使用しないとき、移動時等は刃覆いを確認し、「鎌覆いよし」と指差しよう。

内 容

- ① 刃覆いは完全に装着してあるか。
- ② 刃覆い、その物は破損していないか。

傾斜地での歩行作業が主に急斜面での転倒転落などの災害刃覆いをしてあげれば良かったなどならないように完全装着すること。

11. 作業終了よし……連続作業の節目、安全作業の確認の節目でもあり大切にしたい。すっきりした気持で、「作業終了よし」と指差しよう。

① ヒヤリ、ハット、はしなかったか。

② 何か思いついたことはなかったか。

} 後の作業を実行し易くするために安全作業を点検しよう。

VI 成 果

造林事業における指差呼称を実施することによって、一人一人が安全作業について表-4のとおり指差呼称の認識を新たにした。一人でできなければ全員で行ない、はずかしさを取ることで一人一人が行なえる自信ができた。

表-4 指差呼称をしてよかったこと

指差呼称をしてよかったこと

- 1、作業中メリハリができて気持ちがいい
- 2、今まで漫然と安全作業をしていたが、指差して確認するので確実に実体視するようになった
- 3、作業の節目、節目の大切さがわかった
- 4、相手方の行動おも確認するようになった
- 5、注意力が前より高くなった
- 6、一日の作業が終わった時の満足感がある

お わ り に

我が担当区は造林事業の指差呼称を導入したが、まだまだ不完全であり、その補足として今まで実施してきた安全活動、特に自己声掛等活用して指差呼称を完成し他の模範となるべく努力していきたいと思う。